

ご紹介します 市の主要プロジェクト ①

『天然記念物整備活用事業』

21世紀へ向けて発展しつつある北東北の拠点都市大館。「この事業で大館はどう変わっていくの」、「あの事業は今どこまで進んでいるの」といった皆さんの声にこたえ、今号から大館市発展の概要を順次紹介していきます。

保存を更に積極的に進めるとともに、学習施設の充実を図ることによって天然記念物に対する科学的な理解を深め、保存意識の高揚を図るべきとの声が高まっています。そこで市では、この二件の天然記念物の保護を図りながら、市民の生涯学習、学校教育のフィールド学習、親子のふるさと探訪学習の場としての環境の充実化を図るために、学習施設や野外観察施設等を整備するための計画を進めてきました。



大館市には六件の国指定天然記念物があり、郷土の誇る宝、かけがえない自然・文化遺産として、全市を挙げてその保存に取り組んできました。

その中でも、自然の冷風が吹き出し、その環境のもとで高山植物が生育している「長走風穴高山植物群落」と、市街地近郊にありながら、植物学上の高い価値を有する湿原植物が数多く群生している「芝谷地湿原植物群落」は、研究者は言うに及ばず野外観察の場として市内外の数多くの人々が訪れるところとなっています。

近年、市民の皆さんから、その

これら学習環境の充実化のための施設を整備することにより、他の四件の国指定天然記念物や、県及び市の指定天然記念物をも合わせた文化財の保護を、より一層推進することができそうです。

この事業の予算は四億円。今年度から着手しており、九年度には完了する予定になっています。計画の主な内容はつぎのとおりです。

整備内容

- ・長走風穴高山植物群落
- ・風穴館(仮称)建設
- ・木造2階建、床面積386㎡
- ・風穴倉庫復元 1棟
- ・風穴倉庫石積み復元 5カ所
- ・観察台建設
- ・学習遊歩道改修
- ・あずまや建設 2棟
- ・案内説明板設置
- ・ベンチ設置
- ・木柵設置
- ・【芝谷地湿原植物群落】
- ・往復木道敷設 170m
- ・植物観察園建設
- ・休憩所建設 1棟
- ・あずまや建設 1棟
- ・駐車場建設
- ・トイレ建設

国民年金 Q & A

20歳になったら みんな国民年金

Q・私は現在、四年制の国立大学に通っています。十月に二十歳の誕生日を迎えますが、国民年金には学生でも必ず加入しなければならぬのでしょうか。

A・平成二年度までは、二十歳以上の学生は、希望者のみが国民年金に加入する任意加入扱いとなっていました。加入期間四十

年を満たし、将来は満額の老齢基礎年金が受けられるようにしなければなりません。

国民年金の保険料は、現在月額一万一千七百円ですが、納付がどうしても困難な場合に保険料の納付を免除する制度があります。

保険料は、被保険者になると納めなければなりません。学生は一般的に収入がなく、実際には親が保険料を負担する場合があります。親の経済的な事情で納付が困難な場合は、一般の保険料免除と別に、特別な免除基準を設けて保険料の納付を免除しています。

（内線236）

市長リポート No. 97

拠点都市地域に CATVを導入



大館市を中心とした県北3市13町2村で構成する米代川流域地方拠点都市地域では、今後いよいよ本格的な都市整備が始まり、これによって、いわば「米代市」とでもいうべき、大きな流域都市が生まれることとなります。

この中で、血管にあたる部分を道路に例えると、神経にあたる部分は何か。拠点都市地域全体の皆さんが共通の情報を持つための手段を神経と捕らえた場合、従来のテレビの難視聴対策という点も含め、CATV（ケーブルテレビ）の導入を真剣に考えるべき時期が訪れているのではないかと感じています。

このCATVを導入することによって、視聴可能なテレビのチャンネル数が一挙に30チャンネルを超えます。中央から離れた地方に住むかたは皆それぞれ、情報に対する飢餓感を持っているわけですが、CATVによって中央との情報格差が埋まることとなります。これは若者の地元定着にも好材料となるのではないかと考えられます。また、災害対策においても、この情報網を持っていることが大きな利点になりますし、何より、拠点都市地域をネットワークすることで域内住民の連帯感が生まれるものと思われまますので、早急に導入を進めたいと考えています。

小畑 元